

平成24年1月24日(火)～7月5日(木)



高度経済成長期の開発と 遺跡発掘調査



多治見市文化財保護センター 開館二十周年記念企画展

— 多治見の今、むかし、おおむかし —

開発と遺跡発掘調査

遺跡は埋蔵文化財として、昭和25年制定の文化財保護法により、その保存と活用が定められています。しかし、やむを得ない開発により滅失を免れることができない場合には、緊急発掘調査をして得られた成果(実測図や写真など)を残す、記録保存という方法がとられます。日本全国で行われている遺跡の発掘調査も、ほとんどがこの緊急発掘調査による記録保存であり、文化庁による平成21年度の統計では、年間の学術調査が428件だったのに対し、工事に伴う事前発掘調査は7,188件でした。現在は高度経済成長期やバブル経済期のような勢いはありませんが、開発が豊かで便利な暮らしと多大な考古学的成果を私たちにもたらしてくれる反面、それと引き替えに数多くの遺跡が発掘調査報告書にその姿を変えつつあります。

人々がマイカーやマイホームを手にすることが可能になった高度経済成長期の昭和40年代から50年代前半にかけては、多治見市内でもその需要に応えるべく道路の整備や宅地造成といった大規模な開発が行われ、それに伴う遺跡の発掘調査が本格化しました。そうした発掘調査の主体になったのは市の教育委員会ですが、地元の「多治見市考古学研究会」※の会員、名古屋大学や南山大学で考古学を専攻する教員や学生たちなど、地域の歴史の考古学的な探求と、遺跡の保護に対する情熱を燃やす人々の助力、関係者の理解と協力があってこそ、可能になったことです。多治見市考古学研究会は、会報『原始人』や『石片を掌に』『原人のいぶき』を発行し、学術雑誌に投稿するなどしながら、多治見の考古学の基礎を築きました。会員であった田口昭二氏が古窯跡の資料をもとに作成した美濃焼の型式編年は、その後の編年研究の基本になりました。また、会員は若い世代への教育にも熱心で、多治見の考古学の裾野を広げていった一方、後には会員の中から市の文化財保護をになう文化財審議委員も輩出され、その活動の功績は現在にもつながっています。

参考文献：多治見市考古学研究会 1965～『原始人』、同・1968『石片を掌に』、同・1969『原人のいぶき』
文化庁文化財部記念物課 2011『埋蔵文化財関係統計資料』

※1965年発足当時の名称は「多治見市考古学グループ」で、1967年に改称された。

ひら お エーち てん 平尾A地点遺跡 [平井町1・2丁目]

多治見市内で考古学的な遺跡の発掘調査が行われる契機となったのは、中央自動車道の建設でした。昭和42年（1967）、岐阜県と多治見市は予定路線に沿って埋蔵文化財の分布調査を実施し、確認されたのが平尾遺跡です。遺物散布地であることを把握していた多治見市考古学研究会も参加し、2年後の44年に発掘調査されました。

大正年間の水田開発によって遺跡は攪乱を受けていましたが、弥生時代の竪穴式住居址が発見され、内部から台付甕などの土器が出土しました。台付甕は甕の底部に小さな台を取り付けてあり、熱効率よく煮炊きができるように工夫された、鍋のようなものです。他にも遺構に伴うものではありませんでした、縄文時代の石鏃（やじり）や土器片、旧石器時代の末から縄文時代草創期の有古尖頭器（石を打ち欠いて作った槍先）、西坂遺跡の出土品と類似した前期旧石器の特徴をもつ石もみついています。

発掘調査時の平尾遺跡（第1地点）

多治見市教育委員会1970『平尾遺跡・虎溪山遺跡』

住居址出土の台付甕



平尾A地点遺跡を横断する中央自動車道

こ けいざん 虎溪山遺跡・虎溪山古窯址群 [虎溪山町3丁目・長瀬町]

虎溪山遺跡は平尾遺跡と同様、中央自動車道の建設に伴って発掘調査された遺跡です。平尾遺跡の調査終了後、昭和44年（1969）から45年にかけて実施された調査では、遺構は認められなかったものの、旧石器時代から縄文時代にかけての石器が多数出土しました。この調査期間中、隣接地において古窯が発見され、虎溪山1号・2号窯が発掘調査されました。これらは灰釉陶器を焼成した平安時代の窯であり、1号窯の資料は虎溪山1号窯式として、美濃における灰釉陶器の型式編年の指標とされました。続いて3号窯も、46年（1971）に発掘調査されています。

発掘調査時の虎溪山1号・2号窯



石匙（いしざじ）



灰釉陶器の碗

多治見市教育委員会1970『平尾遺跡・虎溪山遺跡』 同1971『虎溪山3号窯・大原古窯址群発掘調査概報』 田口昭二1973『美濃焼の起源を探る—美濃古窯の灰釉陶器と山茶碗の編年—』



中央自動車道完成後の虎溪山遺跡・古窯址群一帯（中央右は虎溪山PA）

おお はら 大原1号・2号窯 [大原町8丁目]

タイル集荷組合建設地の造成中に発見されました。1号窯は既に破壊を受けて窯体は失われていましたが、灰原（不良品や窯内の灰を廃棄した場所）出土品から13世紀の山茶碗を焼いた窯であったと推定されます。2号窯は煙道部を欠くものの、全長約6.7mとみられる10世紀の灰釉陶器の窯です。窯内には、窯詰める製品を置くための焼台が設置されていました。製品には碗や皿・蓋・鉢・瓶・盤などがあり、鉢には口径45cmを超える大型品がみられます。その後、大原町から幸町にかけて平安・鎌倉・江戸・明治時代の古窯の存在がわかり、大原古窯址群は18基になりました。多治見市教育委員会1971『虎溪山3号窯・大原古窯址群発掘調査概報』

発掘調査時の大原2号窯



灰釉陶器の輪花皿



現在の大原2号窯

にし ざか 西坂遺跡・西坂古墳 [明和町1丁目・西坂町5丁目]

明和町1丁目交差点付近には、多治見市考古学研究会のメンバーらが昭和40年（1965）から石器や土器、陶器片を採集していた、西坂遺跡がありました。現在は道路や商業施設、住宅展示場になっていますが、昭和46年（1971）から平成5年（1993）までの間に4次の発掘調査が行われ、旧石器や縄文土器、弥生時代の住居址、古墳などがみつかりました。古墳の石室は、小泉小学校に移築保存されています。中でも注目を集めたのは、古い石器の特徴をもち、出土した地層の年代から9～13万年前に遡りうる前期旧石器ではないかと議論を呼んだ資料です。

東北地方の研究者らがこれを認める一方、あたかも石器のように自然の作用で割れた「偽石器」とみなす研究者との間で、論争となりました。平成12年（2000）に前期旧石器捏造事件が発覚し、日本列島の4万年前より古い前期旧石器のほとんどは、ニセ物だったことが確認されました。しかし、これらの捏造とは全く関係のない西坂遺跡の出土品を含む資料については、いまだ解決されない問題として残っています。

多治見市教育委員会1977『西坂 西坂遺跡A地点（第1次）発掘調査報告書』 同1997『西坂 西坂遺跡B地点（第2次）発掘調査報告書』ほか

発掘調査時の西坂遺跡（遠景）



西坂遺跡で採集された旧石器



現実の西坂遺跡（左と同地点で撮影）

めい わ 明和 1 号窯 [明和町4丁目]

明和1号窯は宅地造成が計画されたことから、昭和48年(1973)に多治見市教育委員会が埋蔵文化財の有無を確認したところ、他の2基とともに発見されました。当初は造成により破壊を免れることはできないと判断され、市教委を主体に名古屋大学、多治見市文化財研究会らによる発掘調査団が編成され、記録保存を目的とした発掘調査が同年に行われました。

天井部は崩落していたものの、燃烧室から焼成室、煙道にいたる全長8.75m、最大幅2.2mの窯体が比較的良好な状態で検出され、丸太杭や使用後の焼台、焼成中に破損した製品を使って側壁を修理した痕跡も確認されました。また、1号窯の横には二段の平坦面が構築されており、その内部には柱穴や炉の痕が認められ、この窯に付属する作業場であると考えられています。13世紀の山茶碗の碗・皿・壺・鉢などの出土品は、美濃における山茶碗の型式編年の基準ともなりました。

本来、住宅地になり姿を消す運命にあったこの窯は、平成10年(1998)に多治見市の史跡として指定され、現在は市の緑地公園として現地で埋め戻し保存されています。

多治見市教育委員会1973『明和1号窯発掘調査概報』



山茶碗と皿



現地で埋め戻し保存された明和1号窯

たき る むかい しま 滝呂向島窯跡 [滝呂町14丁目]

滝呂向島窯跡は滝呂台団地の造成に先立ち、明和1号窯と同じ昭和48年(1973)に発掘調査されました。同様に発掘調査団が編成されましたが、地磁気による年代測定担当と、市教委の事務担当者を除くと団長以下わずか4名(名古屋大学と多治見市文化財調査委員)、調査期間は11月20日から12月16日までという調査体制でしたが、大きな成果をあげています。

滝呂向島窯跡も、やはり天井部は崩落していたものの全長9.81m、最大幅2.24mの床面がよく遺存しており、窯体の全容がほぼ確認できています。煙道部では、焼成室との境にあたる部分において、スサ入り粘土を直径25~30cmの柱状に固めた4本のダンパーの基部が検出されました。出土した製品は山茶碗の碗・皿などで、明和1号窯よりもやや新しい特徴をもっています。

多治見市教育委員会1977『滝呂向島窯跡発掘調査報告書』



山茶碗



滝呂台団地になった滝呂向島窯跡

きた おか 北丘古窯跡群・北丘古墳群 [北丘町・根本町・西山町]

35基の窯跡が点在する北丘古窯跡群も、住宅団地造成の際、昭和54年(1979)から55年と57年から58年にかけて、発掘調査が実施されました。このときに調査された19基の窯では、須恵器・灰釉陶器・山茶碗といった製品が焼かれており、その年代は8世紀(4・5号窯)から13世紀(13・10・19号など)に及びます。市内最古の窯は大針台1号窯(須恵器窯)が知られるものの未調査であり、それに次ぐ古さの北丘4・5窯が発掘調査されたのは意義深いことでした。8号窯は灰釉陶器と須恵器を併焼した9世紀の窯で、この窯の発見によって、従来考えられていた東濃における灰釉陶器生産の開始時期が遡りました。同じく灰釉陶器の15号窯では、緑釉陶器が美濃で生産されていたことも裏付けられました。

また、各時期の山茶碗の窯が調査されて、窯の構造や製品の変遷がわかりました。さらに、中世のものとみられる炭焼窯の存在も確認されています。北丘には窯跡だけではなく、現在は北丘球場となっている地点などに7世紀の築造と考えられる4基の古墳があり、窯が築かれるよりも古くから、北丘には人々の営みがあったようです。古墳の石材を使った石室が、根本小学校に復元されています。多治見市教育委員会1981『北丘古窯跡群・古墳群発掘調査報告書』



北丘古窯跡群の須恵器(右)・灰釉陶器(後)・山茶碗(左)



かつて北丘古窯跡群があった根本ステーションパーク団地



かつて北丘古墳群があった北丘球場



発掘調査時の北丘9号・16号・10号・14号窯と、2号炭焼窯



発掘調査時の北丘2号古墳石室内



北丘2号墳出土の金銅製耳環(耳飾)

和暦	西暦	社会情勢	文化	多治見のできごと
昭和39年	1964	海外旅行が自由化される 名神高速道路全通 東海道新幹線営業開始 東京オリンピック開催	東京に「みゆき族」現れる 漫画「オバケのQ太郎」「サイボーグ009」連載開始 雑誌『平凡パンチ』創刊 流行語「ウルトラC」	電話自動化（東京・大阪と即時通話が可能に） 多治見新駅舎完成式 市民体育館完成
昭和40年	1965	岐阜国体開催 プロ野球がドラフト制度を実施 秋篠宮文仁親王が誕生 日韓条約締結	朝永振一郎さんにノーベル物理学賞 テレビ各局がワイドショーを放送 エレキギターが若者に人気	富士見町に塵芥焼却場20 t 炉完成 坂上町に児童館開館 小泉簡易水道給水開始 多治見駅広場整備完成式
昭和41年	1966	国民祝日法改正公布（9月15日が敬老の日、10月10日が体育の日に） 3 Cブーム（カー、クーラー、カラーテレビが各家庭に） 国内で航空機事故が多発 国民的ファミリーカー「カローラ」「サニー」が登場	ビートルズが来日 グループサウンズが続々と登場 漫画「巨人の星」連載開始 NHK朝の連続テレビ小説「おはなはん」平均視聴率46%	姫簡易水道給水開始 中央線名古屋－瑞浪間複線電化工事完成開通式 多治見市陶磁器意匠研究所を新築
昭和42年	1967	公害対策基本法公布 大阪の北千早駅に日本初の自動改札機を設置 羽田学生デモ事件	多湖輝 著『頭の体操』がベストセラーに リカちゃん人形、「ホンカレー」発売 プロボウリング協会設立 「フーテン族」「ヒッピー族」が現れる	市役所に交通安全対策室を設置 国宝永保寺観音堂、開山堂に防火設備設置
昭和43年	1968	東大紛争 小笠原諸島返還 郵便番号制度実施 三億円強奪事件 岐阜県公害防止条例施行	川端康成さんにノーベル文学賞 サイケデリックな感覚が若者に人気 流行語「とめてくれるなおかさん」 ミニスカートの流行全盛 ラジカセ発売	市之倉簡易水道給水開始 住居、商業、工業の用途地域を設定 勤労青少年ホーム完成式 中央線、瑞浪－中津川間が複線電化され、51型機関車さようなら運転 土岐川の白濁度300度を超え問題に
昭和44年	1969	東大安田講堂の攻防 東名高速道路全通 戦後最長の好景気（いざなぎ景気） アポロ11号が月面着陸し、人類が月に降り立つ	6歳の少年が歌う「黒ネコのタンゴ」が大ヒット アポロ11号のテレビ中継が視聴率95%を記録 映画「男はつらいよ」封切 流行語「あっと驚くタメゴロー」 スポーツ根性ものテレビドラマが人気	虎渓山永保寺庭園が国指定の名勝に 陶都大橋渡り初め式 市民プール完成式 陸上競技場完成 多治見警察署新築移転 平尾遺跡を発掘調査 虎渓山遺跡を発掘調査（～昭和45年）
昭和45年	1970	公衆電話3分間通話開始 国産人工衛星「おおすみ」打ち上げ 大阪で日本万国博覧会が開催される 赤軍派が「よと号」をハイジャック 作家の三島由紀夫さんが市ヶ谷駐屯地で割腹死	東京で歩行者天国が始まる 漫画「ドラえもん」連載開始 名古屋に「ケンタッキーフライドチキン」国内1号店 テレビドラマ「時間ですよ」放送開始 女性誌『アンアン』『ノノノ』創刊	精華小学校校舎2棟焼失 多治見税務署新築移転 市内電話局番22・23・27・29の4局に大原1号・2号黨を発掘調査
昭和46年	1971	第1次ドルショック（1ドル＝308円） 天皇・皇后が訪欧 「イタイイタイ病訴訟」判決	「カップヌードル」発売 東京の銀座に「マクドナルド」国内1号店 「仮面ライダー」「スター誕生」テレビ放映	東栄町や富士見町などで大規模な山林火災 国道19号線多治見バイパスが暫定2車線で供用開始 笠原鉄道旅客輸送廃止 岐阜県陶磁器陳列館が開館 美濃焼センター、北消防署が完成 荒川豊蔵さんが文化勲章を受章 富士見町にこみ焼却場50 t 炉を増設 西坂遺跡A地点を発掘調査
昭和47年	1972	グアム島から旧日本軍の横井庄一さんが生還 連合赤軍が浅間山荘に立てこもる 沖縄返還 「四日市ぜんそく訴訟」判決 日中共同声明に調印	札幌オリンピックで「日の丸飛行隊」が活躍 高松塚古墳で壁画が発見される 中国から上野動物園にパンダが贈られる 田中角栄首相 著『日本列島改造論』がベストセラーに テレビドラマ「太陽にほえろ」放映	大畑センター（不燃性廃棄物処理場）設置 中央自動車道小牧JCT－多治見IC間開通式
昭和48年	1973	第2次ドルショック 「水俣病訴訟」判決 金大中事件 第1次オイルショック	五島勉 著『ノストラダムスの大予言』が反響を呼ぶ 5人兄弟が歌うフィンガー5、中学3年生の女性歌手「中三トリオ」が人気 フォークソング「神田川」が大ヒット 江崎玲於奈さんにノーベル物理学賞 ゴルフがブームに	5代加藤幸兵衛さんが青磁で県の重要無形文化財指定 大畑町に不燃物圧縮処理場を設置 中央自動車道多治見－瑞浪間開通 国道19号線の神明峠が4車線になる 明和1号黨と滝呂向島黨跡を発掘調査
昭和49年	1974	フィリピンから旧日本軍の小野田寛郎さん生還 新門トンネル貫通 佐藤栄作元首相にノーベル平和賞	スプーン曲げのユリ・ゲラーさん来日し、超能力ブーム「ベルばら」ブーム プロ野球の長島茂雄選手が現役引退	新市庁舎竣工 多治見市民病院新築移転 笠原町の妙土黨を学術調査する
昭和50年	1975	新幹線が博多まで開通 中央自動車道の恵那山トンネル開通 沖縄国際海洋博覧会 天皇・皇后が訪米 三億円事件が時効	紅茶キノコがブームとなる 家庭用ビデオデッキ発売 室蘭本線で最後のSL旅客列車を運転 流行語「ちかれたビー」「がんばんペー」「あんたあのコのなんなのサ」	国道19号線多治見バイパスが4車線で完成 根本小学校開校 多治見美濃焼卸商業団地完成 社会教育センター開所 西坂遺跡B地点を発掘調査
昭和51年	1976	五つ子ちゃん誕生 ロッキード事件 田中角栄前首相が逮捕される	子門真人さんの歌う「およげ！たいやきくん」が空前の大ヒット モントリオール五輪で活躍の体操のコマネチ選手が人気 ボクシングの具志堅用高選手が世界チャンピオンに 流行語「わかるかな？わかんねえだろうな」	多治見郵便局が新築移転 多治見市の人口が七万人に達する 東濃用水道の本給水が始まる 多治見市史（在地・窯業史料編）刊行 北丘1号古墳を発掘調査
昭和52年	1977	初の気象衛星「ひまわり」打ち上げ 有珠山爆発 日本赤軍の日航機ハイジャック事件	プロ野球の王貞治選手がホームラン数の世界記録 スーパーカー、カラオケがブームに ベアで歌い踊るピンクレディーが人気	市営豊岡駐車場オープン 公共下水道第一期工事一部を除き完成 市図書館豊岡旧市民病院を改装して移転
昭和53年	1978	成田の新東京国際空港開港 日中平和友好条約調印 円相場急騰（1ドル＝175円） 第2次オイルショック	流行語「なんちゃって」「窓際族」 「口裂け女」や「ナンチャッテおじさん」の噂が広まる 歌手の3人組キャンディーズが解散	多治見駅前歩道橋完成 陶都中学校・平和中学校のグラウンドに夜間照明を設置 笠原鉄道廃業 保存整備のため虎渓山1号古墳を発掘調査
昭和54年	1979	東京サミット開催 東名・日本坂トンネル事故 木曾御岳山噴火	インベーダーゲームが流行 携帯型カセットプレーヤーの「ウォークマン」発売 ウーロン茶が健康に良いと評判に テレビアニメ「機動戦士ガンダム」放映 サザンオールスターズの歌う「いとしのエリー」ヒット	東濃信用金庫発足 北陵中学校開校 加藤直樹市長が就任 旭ヶ丘に弓道場と運動広場を開設 北丘古窯跡群・古墳群を発掘調査（～昭和55年）
昭和55年	1980	モスクワ五輪に日本不参加 大平正芳首相が急死 異常冷夏で農産物に影響 元ビートルズのジョン・レノンさんがNYで射殺される	YMOのコンピュータ音楽（テクノポップ）がヒット 原宿に「竹の子族」が現れる 漫才ブーム 浅パズルのルービックキューブが流行 歌手の山口百恵さん引退、松田聖子さんや「たのきんトリオ」がデビュー	多治見女子高等学校が男女共学の多治見高等学校に 北栄小学校開校 多治見市史（通史編上巻）刊行 岐阜県東濃西部総合庁舎が上野町に竣工 妙土黨と虎渓山1号古墳が県指定の史跡に

関係年表参考文献： 多治見市 編 1987『多治見市史』通史編（下）、新人物往來社 2002『懐かしの昭和・平成流行事典』別冊歴史読本第27巻第10号

多治見市文化財保護センター企画展

高度経済成長期の開発と遺跡発掘調査

展示期間：平成24年1月24日（火）～7月5日（木）

休館日：土・日・祝日 入場無料

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26

発行 多治見市教育委員会・文化財保護センター

— 多治見の今、むかし、おおむかし —

開館時間：午前9時～午後5時

TEL (0572) 25-8633 FAX (0572) 24-5033

URL http://www.city.tajimi.gifu.jp/bunkazai/